

## 看護部

### 1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

看護師	1,269人
助産師	60人
保健師	3人
保育士	8人
クラーク	41人
看護補助員	98人

### 2. 看護部理念

私たちは、患者・家族の皆様が、安心と満足の得られる看護を提供します。

### 3. 基本方針

- 1) 特定機能病院の役割として、患者さんの安全で快適な療養環境を整えるとともに、他の医療機関と連携します。
- 2) 社会の変化に対応できる看護を目指し、自己研鑽に努めます。
- 3) 教育機関として、医学生・看護学生等に模範を示し、後輩の育成に努めます。
- 4) 自治医科大学附属病院で培われた看護を他の医療機関でも実践し、地域医療に貢献します。

### 4. 平成25年度看護部重点目標

平成25年度の看護部の重点目標は前年度と同様で「医療をとりまく社会情勢に対応し、チーム医療の中で看護部門の役割を果たす。」とし、以下の3項目を挙げ、活動を行った。

- 1) 多職種と連携し、チーム医療を実践する。
- 2) 新人看護職員臨床研修を継続的に実施し、看護部の全職員がお互いに成長する。
- 3) 固定チームナースングを計画的に導入し、看護の継続性と職場の活性化を図り、質の高い看護を提供する。

### 5. 委員会と連絡会

看護部の目標達成に向け、委員会活動を中心に行っている。委員会は次の1)～11)の委員会と、2つの連絡会で以下の活動を行った。

#### 【委員会の活動】

#### 1) 研修・看護職キャリア支援委員会

今年度も研修制度の移行期にあり、キャリア開発プログラム「JASMIN」のMAIN・INTEGRALの研修、ラダー研修「J-ARISE」のラダーⅠ・ⅡA・ⅡBの研修を行った。両研修ともに、研修到達目標を組み込んだ評価票を使用して評価基準の統一を行った。また、ナースナビによる

研修の申し込み、受講報告も浸透してきている。

2006年度から開始となったキャリア開発プログラム「JASMIN」も2013年度で終了となった。2014年度からは、看護職へのすべての研修が、看護職キャリア支援センターが中心となって行うラダー研修「J-ARISE」に移行する。今後も、看護職キャリア支援センターと協力して、看護部が求めている「高い看護実践能力をもつ看護師」を育成するために努力していきたい。

#### 2) 安全活動推進委員会

『安全な業務を行なうためのルールの徹底を図る』を活動方針とし、①5S活動②指差し呼称③手指衛生・個人防護具について④転倒・転落チェック項目の定義づけ、の4つを活動項目にあげ、グループ分けを行い活動を行なった。5S活動は、整理・整頓のルールを再度明示して、年2回の巡視を実施し、徹底と継続を呼びかけた。指差し呼称は、実施率の調査と指差し呼称で防げた事例の回収を行い、実施の定着を目指した。手指衛生・個人防護具は、各部署での疑問を解決し実践できるように、Q&Aによる回答を戻した。転倒・転落チェック項目の定義づけは、チェックに差異を生じないための解釈の定義を作成した。また、アセスメントシート運用時の注意点をまとめ、掲示できるようにした。今年度は、ルールを守るための手段の構築が主であったが、今後はルールを継続して守るための働きかけを考えていくことが課題である。

#### 3) 臨床看護倫理委員会

看護倫理の感受性を高めることを活動方針とし、①倫理的視点で看護活動ができるように、看護倫理について啓発する②倫理的問題、課題に対して活動できる職場風土の醸成を支援することを目標として活動した。倫理的視点での看護活動及び看護倫理の啓発のために、効果的な事例検討会が実施できることを目的に、主任看護師を中心に事例展開方法の研修会を実施した。それを基に各部署で事例検討会を実施し、看護職のほぼ全員が検討会に参加できた。また、各部署におけるカンファレンスや勉強会を実施するときに活用できるように、臨床看護倫理事例検討会の手引きファイルを作成し、各部署に配付した。

#### 4) 看護研究委員会

活動方針は、「院内看護研究の質の向上に努める」であり、重点目標を「院内看護研究に取り組みやすい環境を整える」とした。この目標を達成するために、①看護研究発表に関する手引きの見直しを行う②院内看護研究発表会の企画運営の検討をする③院内看護研究へのサポート体制を整備するの3つの活動を行った。

看護研究発表会に関する手引きの修正をして、平成25年度末にファイルの差し替えを行った。

持ち回り看護研究発表が2年に1回から3年に1回になったことで、1回の看護研究発表会での看護研究論文数が少なくなった。そこで、特別演題の枠を設けて、院外に発表した看護研究論文に触れる機会をつくれたことは良かった。また、看護研究委員の減少に対しては、部署に協力員を依頼することで院内看護研究発表会を運営することができた。

平成25年度に院内看護研究発表会で発表された看護研究は、クリティークの点数が高く、自治医科大学附属病院看護部全体の看護研究のレベルが底上げされたと感じる。

次年度は、看護研究発表会が年に1回になるため、看護研究委員としての活動が減る。

そこで、研修・キャリア支援委員会に協力できることを協力していきたい。

#### 5) 看護記録委員会

患者・家族が見える看護記録とするための知識を身につけることを方針に掲げ、今年度はアセスメント能力の向上を目標とした。アセスメント能力の向上の評価として、看護計画監査13項目の平均点数と経過記録13の監査点数を各々3点以上とした。7月の監査では、看護計画監査点数2.28から12月監査点数は2.33へ上昇した。また、経過記録13の監査点数は2.21から2.32へ上昇している。目標値の3点以上にはならなかったが、12月の監査点数が上昇したのは、7月にアセスメント能力の向上を目的として実施した勉強会を、各部署の看護記録連絡員が自部署で実施した効果ではないかと考える。連絡員の働きが看護記録の質の向上には大きく関与している。看護記録監査に関しては、今年度より監査点数を3点評価から5点評価へ修正をし、今年度は年に2回のスタッフ・師長・委員会監査を実施した。全ての項目について、7月の監査点数より12月の監査点数の上昇がみられた。

そして目標の2つ目として、看護記録連絡員の課題達成率を80%となるように支援するとした。各部署に担当の委員会メンバーを決め、7月の看護記録監査のフィードバックを丁寧に実施し、目標達成に向けていつでも相談を受け、支援できるように心がけた。連絡員の平均達成度は60%であり80%には至らなかったが、これは委員会の目標が達成しなかったことが要因と考えている。

#### 6) 看護情報システム委員会

医療情報部と連携し、病院情報システムの運用とデータの二次利用の推進のための活動を行った。看護を示すデータの活用では、入院患者数に対する看護計画説明割合など新たなデータも毎月提示した。データを提示することで部署への意識づけ、データの精度を上げることにつながってきている。今年はデータの精度をあげるために、意思決定支援の運用上の定義を作成した。また、看護の質評価の指標を模索するため、昨年度から参加している「看護質指標を用いたデータベースによるベンチ

マーキングシステムの施行調査」の他に、日本看護協会の「労働と看護の質向上のためのデータベース構築」事業にも参加している。

今年度も連絡員と連携を図り、連絡員の活動と課題達成のための支援を行った。

看護必要度評価の精度を上げるために、e-ラーニングの活用の推進や看護必要度評価の監査を行った。監査をもとに部署毎に勉強会を実施し前後で比較を試みた。看護必要度評価対象外病棟でも必要度評価の理解をすすめるために、実際の患者を模擬患者に設定し、看護必要度評価を行う勉強会の支援をした。

今年も看護師のためのシステム改修の提案を行った。

#### 7) 看護サービス推進委員会

内部・外部顧客満足の向上に向けた活動として、入院患者を対象に患者満足度調査を実施した。721名の回答が得られた。昨年度の福利厚生に関する調査結果から新人看護職員に対し、ユニフォーム貸与枚数の増加に繋がった。

病院の患者サービス検討委員会と連携し、患者サービスの向上に関しては、「七夕コンサート」「秋のコンサート」「クリスマスコンサート」の運営とサポートを実施した。クリスマスコンサートでは、高校生による移動コンサートを新館病棟で実施し、歩行が困難な患者から好評を得られた。

「ご意見箱」に寄せられたクレーム・感謝の意見を反映する内容の「ミニポスター」を作成し、各部署に配付し注意喚起した。

院内外への広報活動に関しては、病院ホームページワーキンググループの活動に参加し、意見交換ができた。

#### 8) 看護業務委員会

与薬に関連する業務は、指示受けから処方指示書の取り扱い、薬のセット時の確認方法が各部署様々である。各部署による手順の違いが新人看護師、異動者のインシデントの要因や、オリエンテーションを複雑にしている可能性があるのではないかと考え、昨年実施した各部署の現状調査を参考に、安全を考慮し「処方指示書指示受け」の看護手順を作成した。

感染制御部、専門・認定看護師連絡会、看護基礎技術研修担当者から依頼のあった看護業務手順を修正した。

部署で遊休品となっている衛生材料を調査して、他部署で有効利用できるように活動した。

#### 9) 臨床指導検討委員会

看護教育課程の変遷の中で、学校と病院看護部間で臨床実習の際の取り決めについて誤解がないように明文化しておく必要を感じ、臨床実習指導者や看護師長、さらに、自治医科大学看護学部の教員の意見を参考に、「臨床実習指導者の手引き」に「臨床実習にあたっての学校との取り決め」という項目を追加した。

臨床実習指導者のワークショップでは、自治医科大学看護学部成人看護学の村上礼子准教授より「学生の良い

学びにつながった臨床実習指導者の関わり」というテーマで講義を受け、実習後の評価の必要性についてグループワークを行った。終了後のアンケートで91%の参加者が研修内容を良いと回答していた。

臨床実習過程自己評価票では、2012年度よりも実習前後の関わりの評価が高くなってきた。臨床実習指導者が役割を意識して介入しているためと考えている。

「臨床実習指導者の手引き」と「臨床実習過程自己評価票」の見直しと修正を実施した。現在、物的環境の調整を実施しているところである。

#### 10) 看護基準委員会

看護基準委員会では、自治医科大学附属病院の看護部としての看護基準のあり方を考え、「看護実践のための行動指針及び実践評価のための枠組みを構築する」ことを目標に昨年度から活動している。

##### <今年度の活動目標>

- ① 看護基準の書式を決定し書式ごとの例を作成する
- ② 現行のものとのすり合わせをする
- ③ 周知のための教育や浸透させるための手段を検討する

##### <活動の実際>

昨年度の委員会活動で、看護基準とは何かを考え、日本看護協会発行の「看護業務基準」等複数の文献を参考に、また小川裕美子講師の「看護基準・手順改善、活用方法」という研修での学びから、看護基準の定義を以下のように定義づけた。

当院における「看護基準」とは、「施設内の看護部として提供できる看護ケアを標準化し、明文化したもの」とし、具体的には①施設内で提供する看護の標準が成文化されている②患者への看護サービスの質を一定水準で保証する③看護職によって看護内容に差を生じさせないである。

看護基準の書式を決定するために現行の看護基準の課題を考えた。現行は、看護ケア・処置の手順ごとに看護基準がある形式となっているが、この形式では看護基準の定義を表現できない。そのため、看護基準の書式を決定する際、「看護基準の中に、選択された看護行為の根拠が示される」「看護におけるアセスメントの見える化・思考過程がみえる」ことで、施設内で提供される看護の標準化をめざし、PDCAサイクルをまわすことでさらに看護の質を保つことができるような書式を決定した。(書式Aと仮名する)

看護基準の枠組み(4相からなる枠組み)の第3相に看護基準が作成されるよう構成し、委員会で行くつかの看護基準を作成中である。

今後の課題として、現行の標準看護計画・クリニカルパスと看護基準をどのように関連付けていくか、また、書式Aで表現できない看護基準の書式をどのようにするかを考えていく必要がある。3年計画でスタートした看護基準構築の最後の1年に向けて、今年度手がけられなかった目標3も次年度への課題とする。

#### 11) 固定チームナーシング・プロジェクト

今年度の目標は、①平成24年度に固定チームナーシングを導入した部署が、1年間の成果を評価し次年度に繋がる運営ができる②平成25年度に固定チームナーシングを導入した部署が、基準に沿って運営できる③平成26年度に固定チームナーシングを導入する部署が、計画通り導入できるとして、活動を行った。

##### ①・②について

##### (1) 固定チームナーシング

チームリーダー・サブリーダー研修会の開催

7月・12月の2回実施：参加者101名。

- ・アンケートの結果として、チームリーダー・サブリーダーの役割と業務を部署で発揮できたかの問いに、93%の人ができたと回答、自己課題を達成することができたかの問いに、85%できたと回答していた。

- ・次年度は3回目となるため、初めてのチームリーダー・サブリーダーを対象に行っていく。

この研修は動機づけになるので継続していく。

##### (2) 平成25年度に導入した12部署を対象に中間発表会を8月10日に実施した。外部講師によるアドバイスを基に修正を加え、各部署で活動を行った。

##### (3) 20部署の成果発表会を3月1日に実施した。

参加者：315名

アンケートでは、多くの意見が寄せられたため、今後の発表会の企画に役立てていく。

③について7月・12月に部署訪問を行い、導入ガントチャートを基に進捗状況を確認した。3月に3回目の訪問を行い、平成26年度4月から開始できる部署を確認する。次年度の課題について

平成26年度において、固定チームナーシングが導入され3年目となるため、固定チームナーシング委員会活動の評価を行っていく。

現在、評価項目を検討しており、次年度から1年をかけて計画的に評価を行う予定である。

##### 【連絡会の活動】

##### 1) 専門・認定看護師連絡会

本年も専門性を高め相互研鑽することにより、質の高い看護を提言することを目的に活動を行った。

専門看護師は3分野5名、認定看護師は13分野18名が個々の活動目標に沿って実施している。この連絡会では、個々の活動での悩みや疑問の解決の場とし、また、中間評価においては、他分野のスキルを共有し実践活動に活かしている。増えていく専門・認定看護師が連携したチーム医療ができるように、情報交換を行っている。特にがんに関わる分野においては、がん専門看護師を中心に勉強会を行っている。

また、呼吸ケアチーム巡視・NST回診・オピオイド巡視等、医師・薬剤師・管理栄養士・臨床工学技士・理学療法士などとチーム医療を行っている。

日々の活動報告は、認定看護分野別看護管理日誌に入力している。

## 2) 地域派遣支援連絡会 (表1・2・3参照)

看護部の基本方針の一つに「自治医科大学附属病院で培われた看護を、他の医療機関でも実践し地域医療に貢献する」をあげている。その方針のもと平成3年から看護職を地域医療機関に派遣している。今年度は県内2施設(日光市民病院9名、那須南病院6名)、県外2施設(西吾妻福祉病院14名、六合温泉医療センター1名)に計30名の看護職員を派遣している。

平成25年度の派遣終了者から、この派遣中の看護の実践を「看護実践報告」としてまとめることで、「J-ARISE」のラダー研修との置き換え研修として位置付けた。このことにより派遣中もラダー研修に取り組むことができる体制が整った。

派遣者の支援として、今までも実施していた派遣者を対象とした派遣前・中・派遣終了後の支援活動について目的、内容、運用方法についてフローシートに整理した。また派遣終了者との情報交換会で出された内容を参考に、派遣前オリエンテーションの項目、派遣者ファイル内容を見直し改善した。また、派遣終了後には戻ってからの事務諸手続き、派遣期間中に変更となった病院内ルール(医療安全、医療情報システム、感染制御、医療安全等)の確認等オリエンテーションに盛り込み、派遣終了後に戸惑うことなく業務に復帰できるようプログラムを整備した。

平成26年度からは派遣制度を研修として位置付けることから、その名称を「地域実践研修」と改め、連絡会もまた、「地域実践研修支援連絡会」とすることとした。

表1. 地域派遣研修支援活動実施状況

項目	実施日	対象	参加者
派遣終了者との情報交換会	4月4日	H25年3月終了者	9
地域派遣指導者会議	9月25日	派遣先看護責任者(4名含) 当院看護部長他	14
地域派遣フォローアップ研修	10月9日	H25年9月終了者	3
派遣終了者フォローアップ研修	11月5日	H25年3月終了者	6
派遣前オリエンテーション	H26年3月5日	H26年度派遣対象者	10

表2. 派遣者現地訪問面接

項目	実施日	対象	参加者
西吾妻福祉病院	11月21・22日	派遣中の看護師・助産師	11
六合温泉医療センター	11月21日	派遣中の看護師	1
那須南病院	11月15日	派遣中の看護師	5
日光市民病院	11月22日	派遣中の看護師	7

表3. 地域医療体験研修

項目	実施日	対象	参加者
那須南病院	11月18日19日	2日	1
西吾妻福祉病院	11月21日22日	2泊3日	2

## 6. 専門看護師の活動

平成25年度の専門看護師の各領域と人数は表4に示す通りである。

専門看護師の役割は「実践」、「相談」、「調整」、「教育」、「研究」、「倫理調整」の6つであり、今年度の専門看護師の活動は以下の通りである。

表4. 専門看護師の領域と数

専門看護師 領域	人数
小児看護	3
急性・重症患者看護	2
がん看護	1
合計	6

### 1) 急性・重症患者看護(2名)

#### (1) 院内活動

- ①キャリア支援センターを兼務し形成支援部門のメンバーとしてクリニカルラダーの作成に参画
- ②人工呼吸管理安全対策チームへ参画し、1回/週の病棟巡視を実施
- ③集中ケア認定看護師と協力しクリティカルケアに関する勉強会を4回企画・実施し、一般病棟からの依頼を受けた勉強会を4回実施した。
- ④ICU・CCU入室中の患者と家族への看護実践および調整・倫理調整を実施
- ⑤病棟・職種を問わず適宜コンサルテーションを受け対応
- ⑥研究支援 10件
- ⑦医療機器の安全な使用のための調整を2件実施
- ⑧院内急変ワーキンググループの一員として、急変事例検証50件実施。そのうち各部署に出向いての振り返りを8件実施した。
- ⑨理学療法士の吸引実施に向けた教育支援を実施

#### (2) 院外活動

- ①日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程の入試委員、および、実習指導者
- ②日本看護協会成人I論文査読委員
- ③日本保健医療大学の非常勤講師
- ④日本集中治療医学会看護部会委員および鎮痛・鎮静ガイドライン作成委員
- ⑤専門看護師協議会成果研修委員会委員
- ⑥講義・セミナーの講師
- ⑦学会発表3回
- ⑧執筆 5件

## 2) 小児看護

専門看護師の1～11の機能を活用しながら、活動を行った。

以下、小児看護専門看護師全体の活動報告

- (1) 所属部署内（小児集中治療部：PICU）での活動
  - ・受持ち看護師や多職種と協働し、集中治療を受ける子どもと家族のケアを行った。
  - ・部署内教育に関する検討および実施を行った。
  - ・看護研究支援を行った。
- (2) 部署外での活動
  - ・外来において、外来スタッフと協働し、心疾患をもつ子どもと家族のケアを行った。
  - ・他病棟における勉強会を通して、スタッフの教育支援を行った。
- (3) 講師：院内（部署外3回）、院外（看護系大学2回、大学院3回、セミナー講師1回）
- (4) 学会等への参加：6回（4回；共同演者での演題発表、2回；座長、3回；シンポジスト）
- (5) 学会・委員会等の活動
  - ・科学研究費補助金による心臓カテーテル検査・治療に関する研究への参加
- (6) 執筆活動：3件
- (7) コンサルテーション
 

ケア方法に関する相談、意思決定支援に関する相談、育児不安が強い家族に関する相談、就園・就学に関する相談、介入が難しい子どもと家族の相談など、院内の医療者からの依頼と、院外の保健師、訪問看護師、診療所の医師、看護師からの依頼を多数受け、対応した。
- (8) コーディネーション
 

部署内における調整、部署・部署間、多職種間、院外の関係者との調整を行った。必要時、カンファレンスの開催を企画した。また、小児緩和ケアチームのコアメンバーとして活動している。
- (9) 倫理調整
 

コンサルテーション、コーディネーションから、倫理的問題を孕むことについて調整を行った。
- (10) 研究
  - ・平成25年度厚生労働省科学研究費補助金（育成疾患克服等次世代育成基盤事業）研究課題名「患者・家族に対する支援体制の構築に関する研究」
  - ・平成25年度厚生労働省科学研究費補助金 研究課題「子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成」
  - ・自治医科大学看護学部共同研究「終末期にある小児がん病児の同胞への支援の検討」
- (11) 社会活動
  - ・第44回日本看護学会（小児看護）学術集会の準備委員と査読委員を行った。
  - ・日光市教育委員会企画の子育て支援に関する研修会の講師。

- ・栃木県養育支援従事者研修会の講師。
- ・自治医科大学第5回移植患者会で講話をした。

## 7. 認定看護師の活動

平成25年度は認定看護師分野で、皮膚・排泄ケア認定看護師1名が合格し、今年度から活動を開始した。また、今年度は認知症看護の課程を1名修了した。来年度は、集中ケアを1名受講する予定である。各分野と人数は表5に示すとおりである。

認定看護師の役割は、「実践」、「指導」、「相談」の3つであり、今年度の認定看護師の活動は以下のとおりである。

表5. 認定看護師の分野と人数

認定看護師 分野	人 数
救急看護	1
皮膚・排泄ケア	3
集中ケア	2
緩和ケア	1
がん化学療法	1
がん性疼痛	2
感染管理	2
糖尿病看護	1
新生児集中ケア	2
透析看護	1
手術看護	1
乳がん看護	1
摂食・嚥下障害看護	1
小児救急看護	1
がん放射線療法看護	1
合 計	21

### 1) 緩和ケア

#### がん看護

がん看護専門看護師は、緩和ケア認定看護師でもある。

#### (1) 実践

- ①緩和ケアチーム看護師として、302名（外来患者143人、入院患者159人）に対しての看護実践。
- ②がんを持つ親の子どもへのサポートグループ（CLIMB®プログラム）を臨床心理士とともに企画・運営し、患者8人とその子ども12人の参加が得られた。

(2) 相談 3件

(3) 倫理調整 4件

(4) 調整 12件

#### (5) 教育

- ①院内看護職対象にがん看護に関する勉強会の講師を務める。
- ②ラダー研修スキルアップ研修【1】心理ケア【1】の企画・運営・評価を実施。
- ③看護学部、医学部からの依頼によるがん看護に関する講義2回実施。

(6) 研究 研究支援2件 学会発表1件

(7) その他

看護職キャリア支援センターと兼務である。

2) 集中ケア

(1) 院内活動

- ①人工呼吸安全対策チームの一員として一般病棟で人工呼吸を受けている患者の巡視  
(1回/週、他のメンバーと交替で実施)
- ②人工呼吸安全対策チーム勉強会の企画・運営
- ③講師 2回(早期離床、人工呼吸器関連肺炎と予防)
- ④部署内での取り組み
  - ・勉強会
  - ・早期離床プログラム実践結果データ収集
  - ・コンサルテーション5件

(2) 院外活動

- ①学会発表 1回  
(日本呼吸療法医学会学術集会:「一般病棟を対象とした人工呼吸管理サポートチームの過去5年間の活動成果から見た今後の課題と対応」)
- ②認定看護師会役員活動(1回/年会議出席)
- ③執筆活動 2件

(3) 実習受け入れ

- ・認定看護師教育課程 1校

3) 皮膚・排泄ケア

(1) 褥瘡管理

リスクアセスメント票確認	2,376件
ハイリスクケア加算算定	1,619件

(2) 処置

褥瘡	416件
創傷	179件
ストーマ	627件
失禁	59件
その他	123件

(3) コンサルテーション 304回(院外4)

(4) 院内勉強会 13回

(5) 執筆活動 なし

(6) 院外講師 12回

(7) 学会・研修会参加 10回

(8) 院内活動

- 褥瘡対策委員会
- 二分脊椎カンファレンス
- ストーマ連絡会

(9) 院外活動

- 栃木県ストーマ研究会 幹事
- 栃木県ストーマ研究会 編集委員
- 栃木ストーマ講習会 世話人
- 日本小児ストーマ排泄管理学会 世話人
- 小児皮膚・排泄ケアネットワーク
- 関東甲信越地方会栃木県支部 世話人

4) 糖尿病看護

(1) 外来療養支援

在宅療養支援	641件
--------	------

糖尿病透析予防指導

フットケア支援	92件
自己注射導入支援	36件
自己血糖測定導入支援	28件
CGM検査実施	60件
電話・メール相談	48件

(2) コンサルテーション

院内	59件
院外	4件

(3) 院内活動

- 糖尿病勉強会・講師 8件
- NST運営委員として1回/週の回診に参加
- 新看護職員臨床研修 集合教育 講師
- スキルアップ研修(血糖管理ケア) 講師
- 新入職医師オリエンテーション 「インスリンについて」 講師
- 実習生の指導
- 日本看護協会認定看護師教育課程

(4) 院外活動

- 学会セミナー・研修会講師 10件
- 看護学校 講師 1件
- 栃木県糖尿病看護事例研究会 理事
- とちぎ県糖尿病医療スタッフの会 理事
- 栃木県委託事業 1件
- 栃木県糖尿病協会委託事業 2件
- 学会・研究会参加への参加
- 日本看護協会認定看護師教育課程 委員

5) 救急看護

救急看護認定看護師

(1) 院内活動

- ・部署内での勉強会実施 2回
- ・他部署での勉強会実施 2回
- ・研修医に対するBLS教育
- ・新人看護師に対するBLS教育
- ・コメディカルに対するBLS教育
- ・院内急変事例の検証 50件

(2) 院外活動

- ・一般大学での講師
- ・地域復興財団主催 第6回看護専門研修会 講師として参加
- ・他施設でのBLS教育に講師として参加
- ・AHA BLSプロバイダーコースにインストラクターとして参加

(3) 学会参加4回/年

(4) 雑誌等執筆活動

- ・雑誌執筆 1件

6) 手術看護

(1) 院内活動

- ①麻酔科術前外来への介入: 外来での術中看護計画説明の実施 予定手術の20%

- ②院内勉強会の実施：2回
- ③コンサルテーション 部署内：10件、院内：3件、院外：3件
- ④肺切除術後の肩痛の緩和についての取り組み  
(呼吸器外科病棟：理学療法士との連携)

(2) 院外活動

- ①執筆、ガイドライン作成等
- ②学会参加(4回)
- ③日本手術看護学会指名理事
- ④日本手術医学会教育委員
- ⑤とちぎ手術看護情報交換会世話人会

7) 新生児集中ケア

(1) NICU看護技術認定

- ①ポジショニング
- ②気管内吸引

(2) 院内活動

- ①NICU、産科対象勉強会
  - ・ディベロプメンタルケアについて
  - ・ファミリーセンタードケア-NICUにおける家族のケア
  - ・新生児の感染対策
  - ・哺乳のメカニズム
  - ・モニターアラーム対応
  - ・早産児におけるポジショニング
  - ・新生児の安楽な体位
  - ・新生児の呼吸生理
  - ・NICUにおける看取り、グリーンケア
  - ・人工呼吸・胸骨圧迫について
  - ・新生児のフィジカルアセスメント-呼吸・循環器系
  - ・NICUにおける看護倫理
  - ・気管内挿管時の看護のポイント
  - ・低体温時の復温
- ②院内対象勉強会
  - ・気管内挿管時の看護のポイント

(3) 院外活動

- ①新生児蘇生法インストラクター
  - Aコース 3回
  - Bコース 1回
- ②母子保健関係者研修会・講師 2回
- ③養育支援従事者専門研修プログラム・講師 1回

(4) 学会参加 2回

(5) 実習受け入れ指導

新生児集中ケア認定看護師教育課程 1校

8) 感染管理

(1) サーベイランス

- ①医療関連感染サーベイランスの実施(ICU)
  - ・人工呼吸器関連感染(VAP)
  - ・中心ライン関連血流感染(CLABSI)
- ②厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業ICU

部門参加

- ・人工呼吸器関連感染
- ・カテーテル関連血流感染症

(2) 院内活動

- ①勉強会の開催
  - ・各病棟からの依頼にて、リンクスタッフとともに実施
- ②新人看護師集合教育
- ③部署からの相談・支援
- ④アウトブレイクの対応
- ⑤リンクスタッフ会開催(毎月)
- ⑥院内感染対策委員会、ICT総会参加
- ⑦ICTメンバーとしての院内巡視：7回
- ⑧人工呼吸管理安全対策チーム参加(毎週)

(3) 院外活動

- ①栃木地域感染制御コンソーシアム(TRICK)活動参加
- ②他施設講義1件
- ③栃木県立衛生福祉大学校講義

(4) 学会・研修

- ①学会発表：2演題
- ②研修参加：6回

9) 乳がん看護

(1) 患者・家族への支援 612件

- ①治療継続・在宅療養・グリーンケア
- ②告知後支援・意思決定支援
- ③リンパ浮腫ケア・ボディイメージ変容への支援
- ④リハビリ支援
- ⑤家族支援・その他

(2) コンサルテーション

院内 20件 院外 0件

(3) 院内活動

- ①講師 リンパ浮腫勉強会 4回
- ②乳がん看護勉強会 4回
- ③患者会「ピンクリボン桜の会」開催 5回

- ④学生実習指導 がん看護専門看護師 実習指導  
看護学部学生 実習指導

(4) 院外活動

- ①社会活動
  - ・栃木BCN研究会世話人
  - ・栃木県内患者会サポート
  - ・講師 4回
- ②学会発表・研究会への参加

10) がん化学療法看護

(1) 患者・家族への支援 614件

- ①化学療法オリエンテーション
- ②有害事象ケア
- ③意思決定支援
- ④家族支援、その他

(2) コンサルテーション			8回
①院内	75件	②がん放射線療法看護 勉強会講師	4回
②院外	6件	③放射線治療見学会	5回
(3) 院内活動		(4) 院外活動	
①勉強会	16回	①学会、研修会、セミナー参加	8回
「がん薬物療法に伴う有害事象と看護ケア」		(うち シンポジスト1回、発表1回)	
「消化器がんの薬物療法と看護」		②院外講師	2回
「抗がん剤の安全な取り扱いについて」等		③誌上発表	1件
②新人看護職集合研修講師		<b>13) 透析看護</b>	
③化学療法部会構成員		透析看護	
(4) 院外活動		(1) 透析センターでの看護実践	
①講師	6回	①意思決定支援	34件
②研修会・セミナー参加	11回	②保存期支援	38件
<b>11) 摂食・嚥下障害看護</b>		③日常生活管理支援	82件
(1) 院内活動		④導入期支援	46件
①各部署からの相談件数：38件		⑤腹膜透析療法支援	1件
②院内看護師の教育プログラム		⑥指導	48件
・スキルアップ研修：「摂食ケア」		⑦相談	3件
③院内勉強会の実施		⑧勉強会の実施	14回
・NST連絡委員会		(2) 院内活動	
「嚥下障害患者へのケア」		①入院腹膜透析カンファレンス参加	10回
・6階東病棟勉強会		②腎臓病教室参加	4回
「摂食・嚥下障害患者へのケア」		③医師の依頼をうけた患者個人指導	5回
④その他		④市民講座	1回
・NST運営委員会活動		⑤院内勉強会	5回
・NST回診への参加		(3) 院外活動	
・摂食・嚥下カンファレンス		学会・研修会・セミナーへの参加	11回
(歯科・口腔外科のみ)		うち発表	3回
(2) 院外活動		<b>14) がん性疼痛看護</b>	
①院外講師：5回		(1) 院内活動	
②学会・研修会・セミナーへの参加：2回		①緩和ケアチームの一員として、オピオイド回診を	
・日本静脈経腸栄養学会		実施。(隔週で実施)	
・日本口腔機能リハビリテーション学会		②がん性疼痛勉強会の企画・運営	
③執筆：1件		③講師 4回(薬物療法・オピオイドの知識・痛み	
<b>12) がん放射線療法看護</b>		のアセスメント・非薬物的症状緩和)	
(1) 看護実践		④コンサルテーション 2件	
①放射線療法オリエンテーション	293件	⑤部署内での取り組み	
②有害事象ケア	652件	・新人看護師指導プログラム作成・導入準備(他	
③意思決定支援	4件	のプロジェクトメンバーと実施)	
④治療継続支援	58件	(2) 院外活動	
⑤リンパ浮腫ケア	105件	①学会参加 3回	
⑥相談(有害事象ケア、リンパ浮腫ケア)	45件	②講師 1回	
(2) 院内活動		<b>15) 小児救急看護</b>	
放射線治療計画カンファレンス 参加	1回/週	(1) 救命救急センターでの看護実践	
放射線科・耳鼻科カンファレンス参加	1回/週	①小児救急看護支援：トリアージやプレパレーションなど	124件
放射線科・口腔外科カンファレンス参加	1回/2週	②ホームケア指導：21件	
摂食嚥下カンファレンス参加	1回/週	③事故予防支援：5件	
(3) 院内教育活動		④家族支援：3件	
①リンパ浮腫ケア勉強会講師・インストラクター			

## (2) 院内活動

- ① 部署内での勉強会実施：救急外来における小児看護
- ② 院内の勉強会実施：救急蘇生法（救急看護認定看護師と合同で実施）
- ③ 各部署からの相談：3件

## (3) 院外活動

学会、研修会、セミナー参加：5回

## 8. 平成25年度の重点項目に対する取り組みの経過と今後の課題

4. で重点項目とした1)～3)の平成25年度の重点項目を達成するために、BSCを活用して取り組んだ。各部署の活動、前述の委員会・連絡会、専門・認定看護師の活動があった。その他の経過は以下のとおりである。

### 1) 看護職員の確保

平成25年度も一般病棟入院基本料7:1が継続できたが、看護必要度が6月に15%以下になり、評価を記入している看護部だけの問題ではなく病院として対応を考える対策を行なった。看護部としての対策は、看護必要度の正確な入力の見直しと朝の情報交換会の開始である。その結果、15%以下になったのは10月のみであった。看護師の確保に関しては、今年度も、人事課・経営管理課・看護部で協力して行った。対象の学生の就職活動が早まっているため、年度の早期から病院合同説明会への参加、当院での病院見学会の実施、インターンシップに取り組み、学校での説明会にも参加した。さらに今年度は、2～3年目のスタッフが卒業した13校14人に病院案内として就業状況を作成して掲示を依頼した。平成26年度は受験者155人中102人(66%)が実習を受け入れている学校からの受験者であった。(平成24年度:58.9%、平成25年度:55.8%)看護職員の平成26年4月1日付けの採用内定者は、107人である。今年度も採用者のほぼ全員が、病院見学会やインターンシップ、学校での説明会に参加している。また、応募の主な理由には、教育制度や臨地実習での経験もあるため、今後も現場の看護ケアを通して、当院で働きたいという雰囲気を感じられるような職場作りを行っていく必要がある。

特定病床の加算の維持に関しては、看護師の人員は確保できていたが、小児入院医療管理料1を一病棟が施設基準の平均在院日数を超えていたため、前年度に続き取得できなかった。入院する患児の疾病による入院期間の長期化が原因として考えられるが、人員の配置人数を考えると加算取得に向けた検討が引き続き必要である。

今年度は総合診療部が10月から総合診療内科になり、8Bと8A病棟に病床を確保した。また育児休業明けの正規職員短時間勤務制度の利用者が過去

最高となっており(平成26年3月現在72人)、勤務時間や夜勤者の確保が困難になっているため、勤務時間や夜勤への協力依頼を育休通信や育休面接で説明を行っている。また、平成23年3月に看護職員の強い要望で開設された夜間保育所は、利用者が4人と効果的に利用されていないため、正規職員短時間勤務者の活用とともに今後の大きな課題となっている。

また、看護師の業務負担軽減の一環として臨時の看護補助員を20人採用し、脳神経センター、循環器センター、本館8階フロアに配置し、急性期看護補助加算75:1を取得していたが、平成24年7月から、50:1の急性期看護補助加算に変更した。

平成25年度は一般病棟のみなし分の看護師人数と職員・臨時の看護補助員で50:1の急性期看護補助加算が継続できた。平成25年度は、臨時の看護補助員が半数交代予定であったが、11人を1年間延長した。途中で退職した職員の補充ができないまま1年間が経過した。現在の就業状況を考えると、今後、3年間という期限のある臨時の看護補助員の雇用の形態について関係部署と検討していく必要がある。

- 2) 業務負担軽減として、他部門との調整項目の洗い出しに取り組んだ。平成26年度に薬剤師の病棟配置ができる人数と救命救急センターに看護補助員3人が認められた。

今後も、看護師の業務負担軽減に取り組んでゆきたい。

- 3) 看護実践力の向上のための一つとして、早期退院支援にかかわれる体制作りに取り組んだ。具体的には、退院支援に関してモデル病棟を設定し退院支援担当者を選定、活動した。モデル病棟を中心に研修会を5回と10月に退院支援担当者の情報交換会を開催した。目標値を地域医療連携部へのコンサルテーションの件数にしたが、全ての相談件数になってしまうため、看護支援室への退院調整依頼件数とした。退院調整依頼件数は前年度と同じ件数であまり変化がなかった。研修会や情報交換会の度にアンケートを行ったが、おおむねどの会も満足度は90%であった。今後も、退院調整が必要な患者の増加が予測できるため、引き続き看護部として各病棟で行う退院調整と地域医療連携部の介入が必要な患者かどうかの判断力をつけていき、早期からかわっていく体制を作る必要がある。

- 4) 部署別教育・研修として、「災害対策学習会」「倫理事例検討会」「看護必要度勉強会」を行なった。「災害対策学習会」以外は、それぞれ臨床看護倫理委員会、看護情報システム委員会が対応した。「災害対策学習会」は各部署で実施した。附属病院の災害対策マニュアルについては、災害対策委員会から各部署で各自のアクションカードを救命救急センターの

ものを見本に作成するように指示がでて、現在作成中である。災害はいつ訪れるかが分からないため、災害時に速やかな対応ができるように日頃から習慣づけることが大切である。

- 5) 離職防止の一環として、平成21年度から看護職員間の交流を図る目的のレクリエーションを行なっている。今まで実施した内容としては、部署の紹介や、川柳大会(2回)を行った。平成25年度はインフルエンザの流行などがあるため、集合して行なうことが困難であると判断し、全看護職員のがんばりを表彰することとした。看護職員全員に賞状つきものを配付した。また、女子宿舎の利用に余裕があるため入居期間を10年に延長して、職員が活用しやすいようにした。今後は、看護サービス推進委員会で実施したアンケート結果を活かして検討していく予定である。

## 9. 看護部教育実績

### 1) 看護職ラダー教育

今年度のラダー研修「JASMIN」の認定者は、MAIN 97名INTEGRAL11名であり、看護部全体でMAIN287名INTEGRAL24名が認定された。今年度で「JASMIN」は終了し、「J-ARISE」に移行する。INTEGRALをTRY中の者はラダーⅣへ、MAINをTRY中の者はラダーⅢに移行し継続してラダー研修に取り組むこととなる。今後の看護職員のラダー研修は看護職キャリア支援センターが担当する。(表6参照)

表6. 看護部内研修

院内研修					
内容		開催日数	時間数	受講人数	
MAIN	研究Ⅱ	1	4	65	
		1	4		
	クリニカルシンキングⅡ	1	8	78	
		1	8		
リーダーⅡ	1	8	73		
	1	8			
INTEGRAL	クリニカルシンキングⅢ	1	4	32	
		1	4		
	クリニカルシンキングⅢ(発表会)	1	8	27	
		1	8		
リーダーⅢ	1	8	39		
	1	8			
管理研修	主任研修会	6	2hr	59	
	師長研修会	6	2hr	43	
機能役割研修	クラーク・看護補助員	4	1.5hr	160	
看護研究発表会	実施日	前期平成25年9月7日	1	4	300
		後期平成26年2月1日	1	4	302
講演会		平成26年2月19日	1	2	290

### 2) 認定看護師育成

今年度は「認知症看護」教育課程を1名が受講した。また、平成24年度に「皮膚・排泄ケア」分野を1名受講し、今年度合格となった。当院の認定看護師は15分野にわたり、21名となった。

### 3) 認定看護管理者育成

今年度はファーストレベル研修を5名、セカンドレベル研修を5名、サードレベル研修を2名が受講した。看護師長のセカンドレベル認定は、認定看護管理者2名をのぞく42名中31名が認定された。今年度からはサードレベル認定者の育成を計画的に推進していくことを上げ、看護師長2名が受講した。ファーストレベル認定者は、主任看護師の61名中53名となった。主任看護師役割を果たすための要件として、ファーストレベルの受講をあげており、来年度以降も計画的に受講を進めていく。(表7参照)

表7. 認定看護管理者

研修名	平成25年度受講者数	平成25年度認定者	認定者
サードレベル研修	2	0	3
セカンドレベル研修	5	5	31
ファーストレベル研修	5	5	59

### 4) 臨床実習の教育体制

看護学生の实習に関しては、今年度も当大学の看護学部生以外に、県内の看護師養成校5施設と通信制看護学校1施設からの実習を受け入れた。

看護学部の実地実習に関しては教務委員会と連携し、実習担当部署を計画的に調整した。また実習担当部署と学部の実習担当教員との連携強化に向けて、実習開始前に受け入れ病棟での2日間程度の研修を行う体制を整えた。

他の看護師養成校からの学生受け入れに関しても「臨床実習指導の手引」を活用し、短い実習期間で実習目標の達成に向けて関り、臨床指導者の指導力に関して各施設の実習担当教員からも高い評価を受けている。他施設から実習指導体制の見学要請を受けるなど、良い評価の現れと判断している。実習支援の一つとして、他校の実習生で遠方から通学が困難な学生に対しては、臨時宿泊施設を利用できるよう対応した。

認定看護師教育課程の実習受け入れは、例年どおり、集中ケア、糖尿病看護、緩和ケア、新生児集中ケアの4分野で、各分野の認定看護師、専門看護師が該当の部署で指導を行った。(表8参照)

表8. 他施設からの実習・研修・見学受け入れ

施設名	人数
栃木県立衛生福祉大学校	31
栃木県南高等看護専門学校	5
国際医療福祉大学看護学科	44
足利短期大学看護学科	15
茨城県結城看護専門学校見学実習	37
東京衛生学園通信制2年課程見学実習	14
実践女子大学4年生見学実習(保育士)	39
人間総合科学大学(養護教諭養成)	1
川崎医療短大3年生保育実習(保育士)	4
東京家政大学家政学部児童学科	12
認定看護師教育課程(日看協・集中ケア・糖尿病2分野)	6
認定看護師教育課程(北里大学・新生児ケア)	2
認定看護師教育課程(岩手医科大学子度看護研修センター・緩和ケア)	2
聖路加看護大学大学院修士課程	1
慶応義塾大学健康マネジメント研究科修士課程	1
栃木県看護協会(助産師就業支援研修)	1
栃木県看護教員養成講習会(病院見学)	4
養育支援従事者研修(栃木県)	13
養育支援従事者研修(公開講座)	26
宇都宮社会保険病院(ICU見学研修)	9
下野市南河内第2中学校(職場見学)	5
下野市国分寺中学校(職場見学)	4
合計	276

5) 看護学部との連携

臨地実習に関わる看護部職員は「臨床教授等の称号の付与」を受け臨地実習の指導のみならず、看護学部での講義や演習等の依頼を受け担当した。

看護学部において私立大学戦略的研究基盤形成支援事業で今年度採択された日本型地域ケア実践開発研究事業(5年間)に協力していくこととなった。

看護研究の支援に関しては、例年どおり院内研究発表の論文の講評を受け、内容をさらに整えて学会発表にっなげている。

「看護学部教員による看護研究支援に関する申請書」の形式を整え、10件のスーパーバイズを受けた。今後、「J-ARISE」の研修の中で、看護研究を計画的に教育していく体制を整えたことから、現在の順番制の研究発表会は平成27年度で終了となる。そのため今後の看護学部の研究支援の体制については改めて検討していく予定である。

6) 院外への講師派遣

看護師養成機関6施設からの依頼により、看護部職員を講師として派遣し、看護学教育に協力した。(表9参照) また看護協会関係では研修会等の講師として、日本看護協会研修学校から10件、栃木県看護協会から14件、他県の看護協会から2件の講師派遣依頼があった。

その他にも県内外の医療施設や、行政機関から認定看護分野への依頼を受け、自施設内にとどまらず、広く看護界全体の看護職の教育に貢献した。

表9. 院外への講師派遣

看護師養成施設名	人数
栃木県立衛生福祉大学校(本科・専科)	18
栃木県南高等看護専門学校	1
マロニエ医療福祉専門学校	2
茨城県結城看護専門学校	3
日本保健医療大学	5
茨城県立岩瀬高等学校	1
合計	30
派遣依頼元	件数
看護協会関係	26
看護教育機関	9
他医療施設	14
その他	6
合計	55

7) 院外学会研修参加

今年度の学会、研究会等の演題発表は表に示す。(表10、表11参照)

表10. 学会発表・講師派遣等

種別	内容	発表題数
学会関係	日本看護学会	11
	専門領域学会	28
	研究会	13
小計		52
その他	シンポジスト等	9
	学会座長	3
	研究会座長	2
	雑誌投稿	
小計		14

表11. 院外研修(学会含む)参加者数

主催		人数
日本看護協会	学会	16
	研修会	10
栃木県看護協会	研修会	254
看護協会以外	学会	74
	研究会	27
	研修会	53
中央研修会(地域社会振興財団)	研修会	29
合計		463